

令和 4 年度コンプライアンス推進に係る職員意識調査の実施概要について

1 調査目的

本市では、市民との強固な信頼関係の構築を目指して、平成 27 年度からコンプライアンス推進に取り組んでいる。これまでの取組みを通して、職員の意識や組織風土にどのような変化があったかを把握し、今後の取組みにつなげていくために、職員意識調査を実施した。

2 調査の概要

- (1) 調査期間：令和 4 年 10 月 24 日（月）から 11 月 14 日（月）まで
- (2) 調査方法：Web 調査（無記名）※庁内 LAN 端末の利用が難しい場合は紙の調査票を利用

3 調査対象及び対象者数

全職員（再任用職員、会計年度任用職員等を含む。アルバイトを除く。）計 11,203 人
※アルバイトは除く。消防局は消防団員を除く。教育局は学校勤務の職員を除く。
交通局はバスの運転士、地下鉄の駅務員及び運転士を除く。
市立病院は医療安全管理課・経営管理部・総合サポートセンターの職員に限る。

4 調査項目（全 43 問）

- (1) 仕事に対する個人の意識に関するもの（6 問）
- (2) コンプライアンスを推進するための行動に関するもの（15 問）
- (3) 職場のコミュニケーションに関するもの（5 問）
- (4) 組織風土に関するもの（7 問）
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響に関するもの（1 問）
- (6) 内部統制制度に関するもの（4 問）
- (7) 仙台市職員相談・通報窓口の認知度に関するもの（3 問）
- (8) 市民協働に関するもの（2 問） ※

※市民局が市民協働の推進に関する意識を把握するために追加した項目であり、当集計からは除外する。

5 回答数・回答率等

- (1) 有効回答数：7,918 件 [昨年度比：+12 件]
 - (2) 有効回答率：70.7% [昨年度比：▲0.6 ポイント]
- ※回答者属性（所属、任用形態、年代等）は前年度とほぼ同様の構成比であった。

6 区分ごとの概況

※以下の文中の数字（%）は、特に記載のない限り、各設問における肯定的回答者（「そう思う」「まあそう思う」と回答した者）の構成比（%）の計

- (1) 仕事に対する個人の意識に関するもの（Q1～Q6）
 - ・ 全体としては、全ての項目で前年度の傾向と大きな変化なし。
 - ・ 属性別には 20 代職員が全項目でやや改善傾向。特に「仙台市職員として誇りを持って仕事に取り組んでいると思いますか？」（Q3）については 87.5%、対前年度比+1.8 ポイントとなった。

(2) コンプライアンスを推進するための行動に関するもの (Q7～Q21)

- ・ 全体としては、全ての項目で前年度の傾向と大きな変化なし。
- ・ 「常に改善の意識を持って仕事に取り組むことができていると思いますか？」(Q14) は全ての属性でやや改善傾向。
- ・ 「上司の指示に疑問を感じた時に質問・意見できるか」についての上司・部下の視点からの設問 (Q19・21) については、双方の認識に6ポイントの差が見られた。これは前年度に比べ1ポイント差が縮まった。

(3) 職場のコミュニケーションに関するもの (Q22～Q26)

- ・ 「お互いに意見を言い合うことが出来る職場ですか？」(Q22) および「悩みや課題を相談しやすい職場か」(Q23) は、正職員等より会計年度任用職員等、係長職以上より一般職員が相対的に低い傾向は前年度と同様。
※他の項目は前年度の傾向と大きな変化なし。

(4) 組織風土に関するもの (Q27～Q33)

- ・ 全体としては、全ての項目でやや低下傾向。
- ・ 属性別には30代職員がほぼ全項目でやや低下傾向。特に「いろいろな立場の人(正職員、再任用職員、会計年度任用職員、臨時的任用職員など)をチームの一員として互いに尊重する雰囲気がありますか？」(Q29) については83.3%、対前年度比-3.0ポイントとなった。
- ・ 「職場ではいろいろな立場の人(正職員、会計年度任用職員等)を職場の一員として尊重する雰囲気があるか」(Q29: 86.3%)、「職場は職員の指導・育成を積極的に行う雰囲気があるか」(Q30: 72.0%) は、いずれも会計年度任用職員等の肯定的回答者の割合が他の属性(特に管理職)と比べて相対的に低かった。

(5) 新型コロナウイルス感染症の影響に関するもの (Q34)

- ・ 職場のコミュニケーションや仕事への考え方に及ぼした影響を複数回答で尋ねたところ、「勤務時間外の交流が減って親睦が深まりにくくなった」が最多(43.3%)、次いで「仕事上で様々な工夫や改善をした」(25.4%)、「勤務時間外の交流が減って気楽になった」(22.6%)の順となった。この順は前年度と同じであった。
- ・ 「気軽に質問や相談をしにくくなった」、「人間関係がギクシャクして雰囲気が悪化した」といったコミュニケーション上の弊害を想像させる回答は比較的少なかった。

(6) 内部統制制度に関するもの (Q35～Q38)

- ・ 「仮に自分がミスをした場合に、速やかに上司に報告できるか」(Q37: 97.8%) は肯定割合が全項目の中で最も高かった。
- ・ 「もしミスが発生した場合に、組織として対処し再発防止に取り組む雰囲気がありますか？」(Q36: 92.6%) も高い水準にあったが、ほぼ全ての属性でやや低下傾向であった。

(7) 仙台市職員相談・通報窓口の認知度に関するもの (Q39～Q41)

- ・ 窓口を知っていると回答した職員の割合が、全体としてやや改善(79.7%, 対前年度比+1.5ポイント)。特に会計年度任用職員等が+4.2ポイント改善した。